

3月に入ると多くの果樹類は萌芽～発芽時期を迎えます。この時期の管理は、生育期における病虫害の発生量を左右することから、本紙を参考に適切な栽培管理や病虫害防除を徹底しましょう。

なお、気象庁が発表する九州北部地方3か月予報（福岡管区气象台、令和6年1月23日発表）によると、3月の気温は「平年より高い」、降水量は「平年よりやや多い」と予想されています。果樹の生育が早まることに加え、病虫害の動きも活発になると予想されますので、天気予報と生育状況をよく確認し、適切なタイミングで薬剤防除を行いましょう。

### 果樹全般

#### ●耕種的対策（伝染源の除去や園内環境整備）

罹病した葉や枝、落葉、枯れ枝などは病害の重要な伝染源となります。これらを除去することは生育期の病害の発生の低減に繋がる重要な作業です。2月号には作業項目のチェックシートを添付しておりましたので参考にいただき、まだ終わっていない作業等がありましたら必ず取り組みましょう。

### 露地カンキツ

#### ●かいよう病対策

発芽前～5月は本病の重要な防除時期です。特に発芽前（2月下旬～3月上旬頃）の防除はとても大切なので、生育の状況や気温の推移等に留意し、防除時期を逃さないようにしましょう。

本病に弱い中晩柑類はもちろん温州ミカンでも前年に本病が発生していた園や幼木、高接園等ではICボルドー66D 60倍を必ず散布しましょう。

ただし、発芽直前は落葉が生じやすいため、前年の結果過多樹や樹勢が低下している樹への散布は控え、4月以降の生育期に薬剤防除を行いましょう。また、気温が平年より高く推移し、散布直後に急激な気温の低下が予想される場合も散布は控え、生育期に対応します。

## ●黒点病対策

長雨等の異常気象時には薬剤防除だけでは対応が困難なこともあるので、伝染源となる枯れ枝のせん除やせん定枝の除去・処分を徹底しましょう。また、切り株も伝染源となるため、伐根するか肥料袋を被せる等の対策をしてください（写真1）。



写真1 肥料袋で覆った切り株

## ●カイガラムシ類対策

前年にカイガラムシ類が発生した園で、冬季にマシン油乳剤を散布していない場合は、発芽前の3月上旬頃にマシン油乳剤 97% 80 倍を散布しましょう。ただし、かいよう病対策で使用する銅剤との混用は避け、近接散布にならないよう散布間隔を2週間以上空けてください。かいよう病対策が必要な園では、かいよう病の防除（銅剤の散布）を先に行いましょう。

また、かいよう病対策と同様、樹勢の低下した樹への散布や急激な気温の低下が予想される場合の散布は控え、生育期間中の殺虫剤による防除を徹底するとともに、健全な樹勢となるよう栽培管理に努めましょう。

## ナシ

### ●発芽前の病害防除対策

黒星病菌は展葉直後から感染が始まるため、発芽直前にキノンドーフロアブル 1,000 倍を散布します。スピードスプレーヤーで散布する場合は、全列走行でゆっくり散布してください。

ここ数年、黒星病の発生は少ない傾向にありますが、冒頭に述べたとおり3月は降水量がやや多いと予想されますので、油断せず防除対策に取り組みましょう。また、気温が高く推移し開花が早まることも考えられます。その場合は表1を参考に計画的な薬剤防除を行ってください。

## ●白紋羽病対策

植え付け時に、フロンサイド SC 500 倍液を 50 ℓ/樹、植え付けた苗の周囲（半径 50cm 程度）にかん注処理しましょう。特に、白紋羽病の影響で植え替えをする場合は、土壌の入れ替えと植え付け後の薬剤かん注処理を必ず行いましょう。

表1 ナシ黒星病防除薬剤

時期	薬剤名	系統名 (FRAC コード※)	希釈倍率	収穫前日数	備考
開花直前	スコア顆粒水和剤 アンビルフロアブル	DMI (3)	4,000 倍 1,000 倍	14 日前まで 7 日前まで	多発生園ではベルコートフロアブルを加用
	スクレアフロアブル	QoI (11)	3,000 倍	前日まで	
	アクサーフロアブル	DMI (3) +SDHI (7)	2,000 倍	14 日前まで	
交配3日後	ベルコートフロアブル	ビスグアニジン (M7)	1,500 倍	14 日前まで	発生が問題となっている園では DMI 剤を加用
	フルーツセイバー	SDHI (7)	2,000 倍	前日まで	
落弁直後	スコア顆粒水和剤 アンビルフロアブル	DMI (3)	4,000 倍 1,000 倍	14 日前まで 7 日前まで	多発生園ではベルコートフロアブルまたはユニックス顆粒水和剤 47 を加用
	アクサーフロアブル	DMI (3) +SDHI (7)	2,000 倍	14 日前まで	

※殺菌剤耐性菌対策委員会 (FRAC) が定めた作用機構に基づく分類コード

## ブドウ

### ●黒とう病対策

萌芽直前から萌芽極初期（3月下旬～4月上旬）の防除が重要です。この時期にキノンドーフロアブル 600 倍またはデランフロアブル 1,000 倍を散布してください。

## ウメ

### ●黒星病対策

3月中旬にフロンサイド SC 2,000 倍を散布します。ただし、本剤は収穫 60 日前までしか使用できないことから、小梅など収穫時期の早い品種で使用する際は注意してください。なお、4月以降に本剤を散布すると、果実に日焼けに似た症状の薬害を生じるおそれがあるため、3月中旬の防除のみに使用します。

### ●かいよう病対策

開花前から花殻離脱開始前までの防除が重要です。この時期に IC ボルドー66D 50 倍または Z ボルドー 500 倍を散布しましょう。両薬剤とも幼果期に散布すると果実に薬害を生じることがあるので、散布時期に注意してください。本病が幼木で多発生すると、その後も発生が続いて防除が困難となります。幼木では特に防除を徹底しましょう。

### モモ・スモモ

#### ●細菌病対策

モモではせん孔細菌病、スモモでは黒斑病が問題となるので、露地栽培では開花直前に IC ボルドー412 30 倍を散布します。なお、展葉後に散布すると薬害（葉焼け）を生じるため、使用する時期には注意してください。

### キウイフルーツ

#### ●かいよう病対策

発芽前の防除には IC ボルドー66D 50 倍等を、発芽後の防除にはコサイド 3000 2,000 倍（クレフノン 200 倍加用）等を散布します。本病が発生していない圃場でも、予防のため必ず防除を行いましょう。

#### ●キクビスカシバ対策

3月中下旬頃から幼虫が卵から孵化して新梢に食入します。食入された新梢は、4月中旬～5月頃に伸長が抑制され、枯死する場合があります。そのため、3月下旬と4月上旬の2回、フェニックスフロアブル 4,000 倍を散布します。幼虫が新梢内に入ってしまうと、薬剤の効果が期待できないため、適期散布を行ってください。